

アジア研究会1月定例会

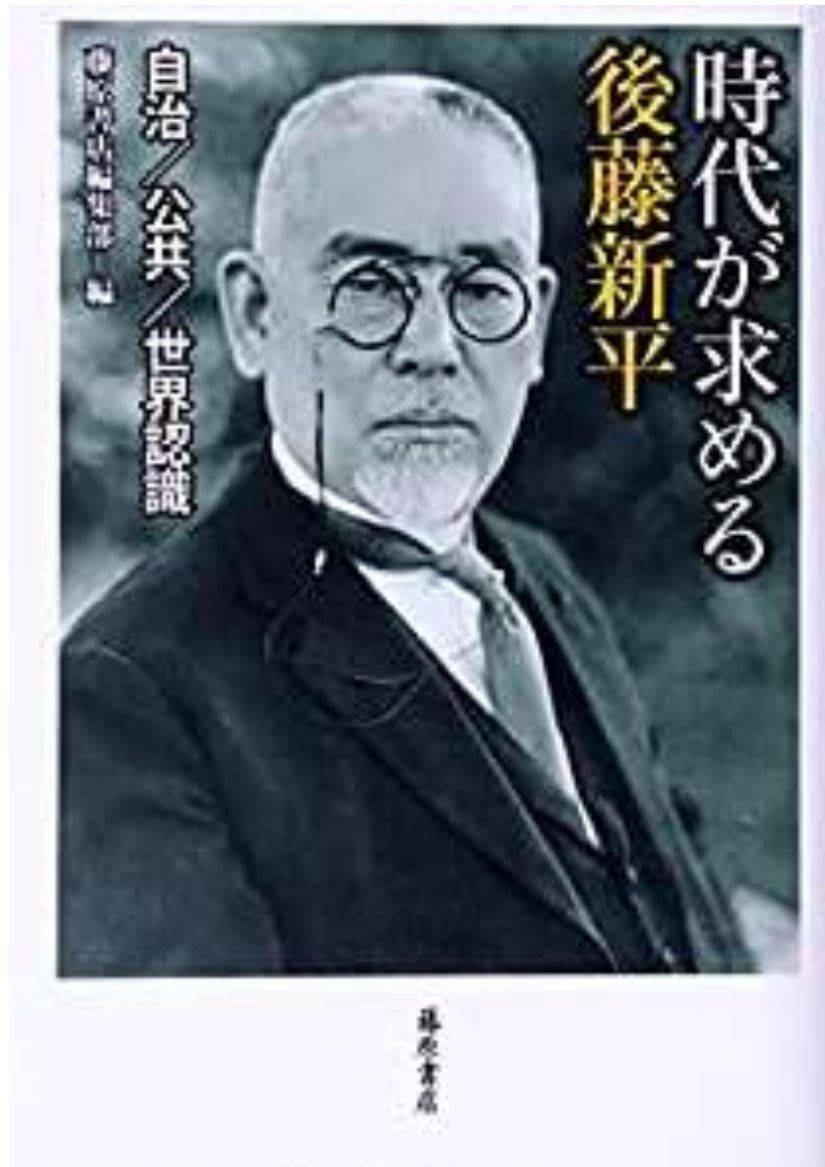
政治家「後藤新平」を語る



2021年1月20日（水）

担当：森井茂吉

参考資料



(藤原書店編集部編纂)

後藤新平略歴

1857年 岩手県水沢市出身

1880年からの愛知医学校長

1883年より内務省衛生局に勤務

1892年に衛生局長となる

1895年の臨時陸軍検疫部勤務を経て、

1898年に台湾総督・児玉源太郎より台湾総督府民政局長（のち民政長官）に指名される

1898年3月～1898年6月まで務め、旧慣調査や産業育成を推進。民政長官として1906年11月まで勤務。

その後、満鉄の初代総裁に就任

1908年に逋信大臣（鉄道院総裁兼務）となり

1911年8月に辞職、

1912年に再度逋信大臣（鉄道院総裁・拓殖局総裁兼務）に就任、1913年辞職。

1916年には寺内内閣の内務大臣兼鉄道院総裁

1918年には外務大臣に就任して日本のシベリア出兵を推進

1920年より東京市長

1923年には再度内務大臣に就任

関東大震災後には帝都復興院総裁を兼務。

被災した東京の復興計画に従事。

1929年4月没。

時代が求める後藤新平、自治、公共、世界認識、政治、外交、経済都市計画、衛生、防災、文化文明と更に人生リーダーシップロンなど多岐に及び、日本の江戸終末期から昭和初期の国難に対処した人と思われる。人あつての人生哲学を持った、その時々、今実施しなければならないことを的確にとらえ、そのための計画手段を創り（戦略と実行）対処した。

- ①公共と自治
- ②現実を踏まえた構想力
- ③地方自治の基本精神
- ④調査に基づく計画性（所位に応じた旧慣調査）
- ⑤渴望される卓越した指導力
- ⑥科学者であり行政官
- ⑦国境を超えた発想力

- ⑧権力は仕事のためにのみ使う（公人）
- ⑨公とは官ではない
- ⑩倫理としての政治（政治は人なり）
- ⑪李登輝総統の後藤論
- ⑫ボーイスカウトへの遺言
 - 1. 金を残して死ぬ者は下
 - 2. 仕事を残して死ぬ者は中
 - 3. 人を残して死ぬ者は上
- ⑬社会作りの基盤は公衆衛生と教育
- ⑭当たり前を見直す
- ⑮都市計画と復興計画（東京市長と関東大震災）
- ⑯未完の環状道路整備
- ⑰満鉄建築の源（大連にてロンドン、パリ、ベルリンを見る）

⑮国際関係の先駆者

⑯どんなポストに就く時でも明確な使命感

(何をやるかが重要)

⑰客観性のある調査研究

⑱後藤新平と出雲大社

⑲初代NHK総裁

㉑優れた外交ビジョン（彼なら第二次大戦にはならなかった）

㉒幹線の標準化（狭軌と改軌）

㉓公民館の建設と文化の殿堂

㉔格差を恐れず画一恐れよ

㉕政治の倫理化

㉖大衆の自治 日本 世界の日本 日本の世界を知る

㉗科学的民主主義の先駆者

- ③⑩衆議院25%の世襲、官僚15%の世襲 政治悪くなる
- ③⑪マッカーサーの愚民化政策 主体性のない米国一辺倒政策
- ③⑫日露協会学校の設立
- ③⑬台湾人の親近感
- ③⑭台湾協会学校の設置
- ③⑮八田の台湾水利事業実行
- ③⑯同潤会アパート供給（鉄筋）
- ③⑰二昼夜で震災復興計画たたき台
- ③⑱名古屋大学と愛知医学校と愛知病院
- ③㉓海水浴導入の意義提唱
- ④①北里柴三郎の実学精神の共有同士
- ④②男性より短かった女性の寿命を伸ばした男
- ④③（東京市長として）水道に塩素消毒

④③人材育成重視

④④森繁久彌、新京放送局勤務の際、都市計画に驚く
(幅員40mの道路)

④⑤本所横網町、陸軍被服廠震災記念堂建設

後藤新平と渋沢栄一

後藤新平と安田善次郎